

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会

第22回 通常総会

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会 第22回通常総会次第

(15:00～17:30)

1. 開 会

2. 京都宣言唱和

3. 部会長挨拶

4. 来賓祝辞

4. 議長選任

5. 議 事

第1号議案 令和4年度 事業報告、決算報告(案) について

第2号議案 令和5年度 部会長変更(案) について

第3号議案 令和5年度 組織図(案) について

第4号議案 令和5年度 事業計画(案) について

第5号議案 令和5年度 収支予算(案) について

第6号議案 令和5年度 会費の徴収方法(案) について

6. 議長解任

7. 祝電披露

8. 閉 会

【事業発表】

宣言

にっしやきょうれん せいねんぶかい

我々、日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会は、

我が組合の創始の精神を重んじ、

業界の自主自立に向けて、全国の結束を強化し、

其々の取り組みの連鎖を力として、

次世代に自信を持って渡していける業界を創る。

令和4年度

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会

事業報告書

活動スローガン

“ 未来は創れ ”

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会

部会長 伊倉 大介

○ 総会・幹事会・会議等

※赤字は全国イベント

【 総会・全国大会・幹事会・合宿 履歴】

2022.3.26・27 幹事団合宿(神奈川・新横浜)

4.16 幹事会(ZOOM)

5.14 プロトリオス座談会(伊倉)

5.28 第4回部会長会議を同日開催

5.28 総会(東京・新橋 AP新橋) ※各単組部会長+1名の参加条件 ZOOMでも中継

6.8 臨時幹事会(ZOOM)

6.14 日車協連総会(伊倉)

7.9 幹事会(ZOOM)

7.19 全国大会実行委員会(ZOOM)

8. 2 全国大会実行委員会(ZOOM)

8. 18 全国大会実行委員会(ZOOM)

8. 19 臨時幹事会(ZOOM)

8. 24 全国大会実行委員会(ZOOM)

8. 27 第5回 全国部会長会議(ZOOM)

9. 2 全国大会実行委員会(ZOOM)

9.10 幹事会(仙台)

9. 26 全国大会実行委員会(ZOOM)

10. 3 臨時幹事会

10. 11 全国大会実行委員会(ZOOM)

10.15 第6回 全国部会長会議(宮城・仙台)

10.15 第11回 全国大会(宮城・仙台) 参加者:270名

12. 14 臨時幹事会

2023. 1. 11 臨時幹事会

1. 28 次期役員予定者会議(秋葉原 事務局)

2. 8 臨時幹事会

3. 4・5 現新合同幹事会合宿(新潟)

3.10 第7回 全国部会長会議(ZOOM)

3.22 臨時幹事会

4.8 新旧合同幹事会(東京・新橋 AP虎ノ門)

5.26 新旧合同幹事会(全国総会準備会 AP虎ノ門)

5.27 全国総会(東京・新橋 AP新橋)

その他、各都道府県の周年行事に参加

【 3役・プロジェクト会議 他 履歴 】

3役会議:31回 経営プロジェクト会議:11回 組織プロジェクト会議:16回

全国大会実行委員会:11回 本会理事会(伊倉):6回

○ 総会報告

2022. 5.28 第21回通常総会(AP新橋)

- ・新型コロナの影響が残る中、各都道府県部会長+1名という制限参加をお願いしての開催となった
- ・来賓は泰楽調査研究委員長にご参加いただき、歴代部会長はZOOMでご参加いただいた
- ・総会前段に第4回部会長会議(2年間で合計8回開催)を開催した
- ・総会承認議案については全会一致で承認を得た(議決は書面にて)
- ・総会終了後に経営・組織の両プロジェクトメンバーによる事業発表を行った

■部会長会議(開催時間:13:00~14:30) 参加者数:31名

- ・報告議案(宮城全国大会の件・令和5年度全国大会開催地の募集案内)
- ・組織プロジェクト担当でプレゼンとディスカッションを行った

■第20回通常総会(開催時間:15:00~16:10) 参加者数:72名

議案内容

- 1.開会
- 2.京都宣言唱和
- 3.部会長挨拶
- 4.来賓祝辞
- 5.議長選任
- 6.議事
- 第1号議案 令和3年度 事業報告、決算報告(案)承認の件
- 第2号議案 令和4年度 事業計画(案)承認の件
- 第3号議案 令和4年度 収支予算(案)承認の件
- 第4号議案 令和4年度 会費の徴収方法(案)承認の件
- 7.議長解任
- 8.来賓祝辞

■令和3年度 事業発表(開催時間:16:20~17:30)

経営プロジェクト・組織プロジェクトより令和3年度の事業報告と令和4年度の活動方針について、スライドを交え発表した。

○ 全国大会報告

2022.10.15 第11回 みやぎ全国大会 参加者:270名

- ・令和3年度で中止となった、みやぎ全国大会を1年越しで開催することができた
- ・実行委員会を設置し、開催までに計11回にわたり打ち合わせを行った
- ・小倉会長はじめ、各県理事長や歴代部会長、多数の来賓にご参加をいただいた
- ・幹事団および宮城青年部会は前日入りして準備
- ・賛助会員ブースを設置し、日車協連の賛助会員にブース設置をいただいた
- ・懇親会では宮城県のご当地グルメを提供した
- ・翌日には2通りのツアーを企画して、参加希望者に参加いただいた
- ・会計はほぼ収支トントンで締めることができた

【総評】

3年ぶりのリアルでの全国大会開催となったが、宮城県の皆様の設えやおもてなしに触れつつ、参加した全国の部会員それぞれが、顔と顔を合わせて、想いと想い、志と志をぶつけ合い、情報や知識を共有することの大切さを実感できる大会となった。今後も、社会情勢に合わせて、全国が一堂に介すことのできる場を定期的で開催するべきである。

【プログラム】

■部会長会議(開催時間:12:00~13:20)

- ・承認議案(令和5年度部会長承認)
- ・報告議案(令和5年度全国大会 主管地募期間延長)
- ・組織プロジェクト担当でプレゼンとディスカッションを行った

■セミナー(開催時間:13:40~14:50)

黒船到来 ~ 新時代のモビリティに青年部会は如何に対応していくのか！？ ~
パネラー:小野隆二氏・バートチグサ氏 ファシリテーター:木下寛士氏

■全国大会(開催時間:15:20~17:50)

- ・スズメ踊り、オープニングムービー
- ・開会宣言
- ・京都宣言書
- ・部会長挨拶
- ・主管地部会長あいさつ
- ・来賓祝辞
- ・宮城青年部会 事業発表
- ・斉藤技術委員 特定整備認証について
- ・プロジェクト発表
- ・閉会宣言

■懇親会(開催時間:18:30~20:30)

大会テーマ

“結”

業界の価値を未来へ繋ぐ

○ 経営プロジェクト報告

【事業目的】

個社の2030年ビジョン構築

【事業計画】

- ・知識、情報取得体制の確立→オンラインアカデミーの構築と拡充
- ・2030年ビジョン構築のサポート→個社の2030ビジョンモデルケースの構築

【事業報告】

昨年度、個社にとって必要な情報をいつでも取得できるように構築したYouyubeチャンネル、オンラインアカデミーの拡充をより一層行いました。今年度もオンラインセミナーを開催したり、各単組の講習会の撮影に伺いました。各単組より、アカデミーへの提供も行ってもらいながら、12本の動画をオンラインアカデミーにアップロードしました。次年度もオンラインセミナーやリアルセミナーなどで有益なものをオンラインアカデミーに追加して更に使いやすいものへとバージョンアップさせていきます。

第11回みやぎ全国大会では、～新時代のモビリティに青年部会は如何に対応していくのか！？～というテーマで元テスラ社員のバートチグサ氏とBP業界のパイオニアのB-LIGHT小野隆二氏をお招きし次世代モビリティに対するディスカッションを開催しました。新素材や新しい修理方法、業界の変革などをディスカッションを通して参加者に伝える事ができました。

個社の2030ビジョン構築サポートでは、昨年度選定した2社の部会員に、モデルケースとして自社の2030年ビジョンとその過程(ロードマップ)を作成していただき、全国大会の場で全国部会員に発表していただきました。更に月1回のモデルケース構築会議の録画をYoutube上で公開して、どのように2030年ビジョンを構築していったかが分かるようにしました。

【下期総評】

オンラインアカデミーでは昨年度構築したベースに更なる厚みを持たせて、情報取得に役立つものを構築できたと思います。しかし動画の再生回数から、あまり部会員さんに視聴されていない事が分かり、認知度が低いという課題が残りました。今年度は動画編集や拡充に時間が割かれて、広報に力を入れられませんでした。せっかく良いものを作ったが、一部部会員さんにしか届いていない現状を大いに反省しなければいけません。次年度にはオンラインアカデミーを引き継ぎつつ、広報活動にも力を入れていってほしいと感じています。

個社の2030ビジョン構築サポートでは、月1回の会議を開催して、現状把握→目標設定→ビジョンの作成→打ち手の実施を計画的に進める事ができ、会議参加者全員がビジョン作成、売上向上など素晴らしい結果が得られました。この活動を全国の単組やグループで積極的に取り組んで、それぞれが個社のビジョンを作成できるようになっていけば良いと感じています。

○ 経営プロジェクト報告

【会議報告】

- 第28回 2022.5.6
- 第29回 5.13
- 第30回 6.8
- 第31回 6.24
- 第32回 8.1
- 第33回 8.18
- 第34回 9.8
- 第35回 9.15
- 第36回 9.30
- 第37回 11.2
- 第38回 2023.2.17

【実施事業】

- 2022.4.28 第2回 人材セミナー(石川氏)
- 2022.6.14 TUVセミナー(栗田氏)
- 2022.7.1 第1回 佐々木氏セミナー
- 2022.8.20 女性活躍セミナー取材(新潟)
- 2022.8.22 第3回 人材セミナー(石川氏)
- 2022.10.15 全国大会セミナー
- 2023.1.7 女性活躍セミナー取材(福井)
- 2023.1.20 インボイス制度&電子帳簿保存法(遠藤氏)セミナー公開
- 2023.3.1 钣金塗装工場のハイブリッド経営(阿部氏)セミナー公開

2030ビジョンモデルケース構築会議 各月1回開催

○ 組織プロジェクト報告

【事業計画】

青年部の持続的な活性化計画

- 組合や青年部会の歴史の共有で、青年部会内における組合の必要性の認識の強化
- 現状の運営方法をより効率的で情報が隅々までいきわたる仕組みの構築
- 青年部会としての「2030年ビジョン」の構築

【事業報告】

歴代インタビューでは、青年部会の歴代のインタビューを実施し、前編と後編で2つに分けて、動画を編集致しました。全部会員が見れるように、YouTubeにて限定公開で共有を行っております。案内や周知に関しては全国大会での事業発表内や、全国部会長会議等で案内をし、より多くの青年部会員に見てもらえるように致しました。この動画で歴史から学ぶことが出来るようになりました。

2年間で全8回開催予定の全国部会長会議ですが、単組部会長が各単組での運営のヒントとなるような内容を心掛けて開催いたしました。コロナ禍でリアル開催が制限される中で、全国の単組部会長との交流の中から単組の活性化となる事業の構築や、情報交換をすることで、活発な単組作りに繋がるように取り組んで参りました。結果、全国の単組でデジタルを使った組織運営や事業も増えました。短い期間での定期的な開催により青年部への意識も高まったように感じます。

オープンチャットライングループの利用内容については、部会長会議の開催時案内や、経営プロジェクトの企画するセミナー開催時などを発信しました。本来であれば共有事案をブロック幹事から単組部会長と共有する流れでしたが、そのやり方を続けながらも同時にグループにて直接案内することでスピード感もって情報を共有でき、グループで繋がることから部会長同士の関係も深まったように感じます。

姉妹単組活動は8班に分かれ、ブロックとは違う全国の幅広いメンバーたちと活動をする機会となりました。内容は多岐にわたり交流会、セミナーなど様々です。社会が変わりつつある今、組合の価値も変わるべく新しい関係性を築けたことは活性化につながるきっかけになりました。

対外連携活動は、岐阜の中日本自動車短期大学様の生徒達と意見交流会を実施しました。半数以上が内定決定している生徒達を中心に、就職の内容について意見を交わしました。少しでもこれから業界で働く若者たちの不安を取り除きながら、我々も意見が聞けたことは有意義でした。これからの世代の違う若者たちと交流することで今後の我々の雇用と、若者達の就職のきっかけになる活動を続けていきたいと感じました。

そして最後に2030年ビジョンの構築ですが、以上の活動を踏まえ組織プロジェクトのメンバーと協議の結果、「地域の次世代リーダーを生み出し、車体整備業界に新たな価値を創造する」に決まりました。これは各単組から日車の活動に参加してもらい、多くのメンバーと活動することでリーダーとしての意識と技術を学び、それを地域に戻り発揮してもらい、更に地域での活動を通じ我々が持つ技術で、まだない新しい価値を創造するという姿を意味しています。今後の青年部会として目指す姿として、次年度へ引き継いでまいります。

以上の活動から、青年部会の組織としての持続的な活性化を目指してきました。

○ 組織プロジェクト報告

【下半期総評】

歴代インタビューはオンラインでさせていただいたものの、動画編集のスキルが十分でなく、もっと見やすく、もっと楽しめるものに出来たら良かったと思います。そしてなんととっても周知の方法が不十分でした。次回は案内するだけでなく、もっと部会員全員が見たくなるような仕組みが必要です。この経験を活かし、これからは「伝え方」も検討していきます。

全8回の部会長会議は、参加した方々からしてみると忙しかったかもしれませんが、このコロナ禍にもかかわらず交流が増え結束力の強化に繋がった点ではいいと思いました。オープンチャットでも部会長同士繋がっていたり、姉妹単組活動という新しいチームで共に頑張ってみたりと、出来ることを探して取り組むことはまだまだ沢山あるということにも気づきました。

対外連携では、情報を素早く全部会員に直接届けられないところが問題だったこともあり、もう少し仕組みの構築の検討が必要であります。とはいえ、対外連携は今後必要不可欠な取り組みであるため、これからも前向きに取り組むべきだと考えています。

2030年ビジョンは、あと7年で達成する目標です。我々青年部から未来のリーダーを輩出するために引き続き活動を活発にしていきたいと思います。部会員や他団体連携と共に新しい価値の創出にもチャレンジしていかなくてはなりません。様々な取り組みが出来た年度でしたが、業界の未来のために引き続き、みんなで協力して進めていこうと思いました。

【会議報告】

第46回 2022.5.9
第47回 5.12
第48回 5.16
第49回 7.4
第50回 7.28
第51回 8.1
第52回 8.4
第53回 9.14
第54回 10.2
第55回 10.4
第56回 11.28
第57回 2023.1.20
第58回 2.21
第59回 2.27
第60回 3.7
第61回 3.11

【実施事業】

2022(R.4)
4/3 第2回YJTV実施「業界の7つの問題点」の2つについて
5/28 第4回部会長会議
6/14 中日本短期大学意見交換会
6/28 姉妹単組A班見積もりオンラインセミナー
7/16 第3回YJTV実施「業界の7つの問題点」の2つについて
8/27 第5回部会長会議
10/15 第6回部会長会議
2023(R.5)
3/11 第7回部会長会議
4/3 姉妹単組F班オンラインセミナー
4/6 姉妹単組D班モデルカンパニー発表
4/18 姉妹単組E班オンラインセミナー
4/22 姉妹単組B班オンラインセミナー
4/22 姉妹単組C班モデルカンパニー発表

○ 活動まとめ

令和4年度の活動は、前年の活動を継続する形で、事業を行ってまいりました。令和3年度・4年度を通じた2年間でを行う活動は、全国の皆様に承認いただいた、令和3年度当初の部会長所信にて明確にしつつ、それを実現させるために、今年度も幹事団一丸となり、事業を進めてまいりました。

経営プロジェクトでは、前年度に構築した「オンラインアカデミー」のコンテンツをさらに拡充するために、セミナーや講習会を継続して開催し、学びの場の可能性をより高めることができました。また、「2030年ビジョンモデルケース構築」の活動では、参加工場それぞれの経営状況を丸裸にして共有することで、問題点や課題を共有し、個社の経営を改善する活動とともに、それぞれの2030年ビジョンを創り、それに向かって経営していくという取組みを実行することができました。そこで、参加工場個社の経営改善に大きく寄与することができたことは大きな成果です。今後は全国的に取り組みを進めていく事で、個社の経営を積み上げ方式で良くしていくことができると強く感じています。

組織プロジェクトでは歴代の部会長から学ぶための「歴代部会長インタビュー」を編集、公開しました。また、全国部会長会議についてこれまで年間2回を倍の4回に増やし、「姉妹単組制度」を前年度から継続することで、各都道府県単組の活性化を図りました。姉妹単組の取組は、今後、全国の交流や結束を強化するうえで様々な可能性がみえてくる有益な取組になりました。そして、「対外連携」として中日本短期大学との交流を行うことで、組合内だけの視点ではない、業界の問題点・課題、または可能性を感じ取ることができました。「日車協青年部2030年ビジョン構築」の取組では、プロジェクトとして2030年ビジョンを掲げることにチャレンジしました。日車協連青年部会という組織としてのビジョンを掲げることの難しさを痛感しつつ、「地域の次世代リーダーを生み出し、車体整備業界に新たな価値を創造する」というビジョンを、今後、青年部としてどのように活かしていくか、期待したいと思います。

秋には、一昨年度、昨年度、主管地決定(宮城県)をしていた全国大会を、ようやく開催することができました。270名の参加者の皆さま、多数のご来賓の皆さま、賛助会員皆様、青年部OBの皆さま、そして宮城青年部の皆様には心より感謝しております。部会長会議、セミナー、全国大会、懇親会、そして翌日の観光ツアーまで、参加制限のない3年ぶりの大会は、幹事団としても全国の皆様としても、リアルで志を共有する貴重な機会となったことは間違いありません。ZOOM等のオンラインでの繋がりは効率的で低予算で参加しやすい点ではありますが、リアルでの交流でのぶつかり合いこそ、青年部の醍醐味であることを痛感しました。できる限り無理・無駄を排除しつつも、大切なものは残し継続していく、そのような視点で青年部活動が続いていくことを願っております。

1年を通して 新型コロナの影響が薄れ、前年度よりはリアルでの活動がしやすくなりましたが、前年と同様、幹事会や臨時幹事会をZOOMで行うことで、リアルタイムで審議ができる体制を継続し、会議費の削減も行うことができました。そして、年度末に、幹事団合宿を開催し、現新の幹事団が参加することで、丁寧に引継ぎと議論を行うことができました。

○ 総括(結びに)

全般的な総括としましては、令和4年度の青年部会事業は、前年度と同様、経営・組織両プロジェクトの努力の結果、当初の計画通りにやるべきことは、おおよそ遂行することができ、また、令和3年度当初に部会長所信として打ち出した考え方や施策を、2年間を通して、大枠、形にすることができました。令和3年度は新型コロナの影響を受けていて顔と顔を合わせての事業が難しかったものの、令和4年度の活動では、極力リアルでの志や考え方の伝達を心掛け、実行してまいりました。

また、経営プロジェクトにおける「2030年ビジョンモデルケース構築」の取組や、組織プロジェクトにおける「日車協青年部2030年ビジョン構築」の取組を通して、個社でも組合でも、ビジョンを打ち立てて、そこに向かって運営していくという経営手法を知っていただき、それを実践していただいた結果、明るい未来を切り開くことができる、という一連の流れを2年間を通して実行することができました。

しかしながら、2年間の活動を通じて、幹事団の取組が全国の部会員の皆様に、一様に浸透しなかったのも事実です。「業界が置かれている現状」「組合や青年部会の課題や問題点」「今後、個社としても組織としても何をしていかなければならないのか」、今後は、さらにわかりやすく整理をして、それを活動に落とし込むことで、部会員の皆様一人一人に響く活動をしていかなければならないと痛感しています。

「未来に対して、必要な知識や情報を的確に学ぶことができる場を創造し、明確に現状を把握しつつ、美しい明るい未来を描き、それに向けた計画を策定し、実行に移していく」

「青年部会としてのあるべき姿を明確にし、組織としての力を高めていく」

令和3年度4年度の2年間を通じて実践してまいりましたが、この考え方はこの2年間に限ったことではありません。また、青年部会の活動は積み上げ方式で発展させる必要があります。2030年という一つの区切りの年に向けて、さらなる積み上げを期待しています。

「日車協連青年部会という組織を維持するため」の活動ではなく、「未来に生き残り勝ち残るための集団になるため」の活動を続けていただけたらと願い、次年度以降にバトンを託します。

私は、この2年間の日車協連青年部会の活動内容は反省はありますが、後悔はありません。それも全国の皆様に支え、幹事団の支えがあったからこそです。各単組部会長様をはじめとした部会員の皆様には、日車協連青年部会の活動に多くのご理解とご支援をいただきました、あらためて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

“ 未来は創れ ”

第1号議案

損益計算書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

収入の部

	予算金額	決算金額
I 会費収入	(9,234,000)	(8,011,822)
1. 会費収入	2,904,000	2,988,000
2. 通常総会事業収入	550,000	256,795
3. 全国大会事業収入	4,500,000	4,047,000
4. 補助金収入	680,000	680,000
5. その他事業収入(セミナー等)	600,000	40,027
II 事業外収入		(59)
1. 受取利息		59
III 前期繰越金	(5,623,602)	(5,623,602)
合 計	14,857,602	13,635,483

支出の部

	予算金額	決算金額
I 事業支出	(10,010,000)	(8,021,467)
1. 事業経費	(7,370,000)	(5,262,789)
(1) 総会事業費	1,200,000	566,610
(2) 全国大会開催事業費	5,100,000	4,058,088
(3) ホームページ運営費	100,000	166,540
(4) 組織PRJ事業費	200,000	86,271
(5) 経営PRJ事業費	200,000	225,536
(6) PRJ事業開発費	200,000	63,480
(7) ブロック運営費	270,000	30,000
(8) その他事業費(セミナー等)	100,000	66,264
2. 事業間接費および一般管理費	(2,640,000)	(2,758,678)
(1) 会議費	2,450,000	2,579,343
(2) 印刷費	100,000	25,840
(3) 慶弔費	50,000	84,850
(4) 支払手数料	10,000	20,180
(5) 事務費	30,000	48,465
II. 予備費	(4,847,602)	
当期余剰金		5,614,016
合 計	14,857,602	13,635,483

財産目録

令和5年3月31日現在

科目	摘要	資産の部	資本の部
現金		¥37,024	
普通預金	ゆうちょ銀行	¥5,576,992	
差引正味財産			
合計		¥5,614,016	¥0

貸借対照表

令和5年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	¥0
現金	¥37,024	前受金	¥0
普通預金	¥5,576,992		
未収入金		負債合計	¥0
		資本の部	
		資本金	¥0
		当期剰余金	¥5,614,016
		資本合計	¥5,614,016
資産合計	¥5,614,016	負債・資本合計	¥5,614,016

監査報告

事業報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書ならびに剰余金処分(案)は

これを諸帳簿その他提出資料により監査しました結果、その正確かつ妥当

なことを確認しました。

令和 5 年 4 月 8 日

日本自動車車体整備協同組合連合会
青年部会
部会長 伊倉 大介 殿

日本自動車車体整備協同組合連合会
青年部会監事


阿部 隆



同

広川 太一



部会長予定者			
フリガナ	コバヤシ ヨウスケ		
氏名	小林 洋介		
生年月日	1978年7月26日		
年齢	44歳		
家族	妻・子4人 計6人家族		
勤務先	株式会社えちごHD	TEL	0256-64-8255
役職	代表取締役	FAX	0256-64-8256
所在地	新潟県三条市善久寺3007-1		
Mail	kobayashi.y@echigo.co		

部会長予定者職歴	
1998年4月	ダイハツ車体 入社
2000年7月	KURUMAYA AUTO 入社
2002年5月	広井鋳金 入社
2007年9月	えちご自動車 創立
2008年7月	株式会社えちご自動車 設立
2013年11月	株式会社えちごホールディングス 商号変更
	現在に至る

車体整備協同組合における経歴	
2018年9月	新潟県車体整備協同組合青年部会 入会
2019年5月	新潟県車体整備協同組合青年部会 部会長
2021年5月	日車協連青年部会 北陸信越ブロック代表幹事
	現在に至る

初志貫徹

業界史上最高の挑戦者達となれ。

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会
次年度部会長予定者 小林 洋介

はじめに

近年の世界情勢という、紛争、パンデミック、災害など、数年先を予測することも難しい状況であります。そんな中、我々を取り巻く自動車産業は100年に1度の大転換期を迎えており、急速なデジタルトランスフォーメーション(DX)やグリーントランスフォーメーション(GX)により社会環境は大きく変化しています。そのような環境下で車体整備業界を維持、発展させていくためには、常に環境と共に変化する力と、モノや仕組み、ビジネスモデルなどに新たな価値を生み出すなど、様々なところで「変化」をしていく力が必要不可欠です。

しかし我々は、日車協連青年部会の創始の精神を重んじ、活動していくことは変わりません。初志貫徹、今だからこそ大きく変わる「チャレンジ」が必要な時でもありつつ、今、最も大切な事は、初めの「志」を貫く覚悟と勇気が必要なのです。

日本全国で行われる青年部活動を通じ、それぞれの単組資源を最大化することで、個社の明るい未来の実現と、車体整備業界に新しい価値を創造していきます。

この2年間の活動におけるMISSION、2030 VISION、VALUEです。

【MISSION】我々の使命

私たちは、日車協連青年部会の潜在的成長余力に着目し、率先した活動を通じて全国の「単組資源の最大化」の支援を行い、個社と社会の明るい未来の実現に貢献します。

【2030 VISION】2030の目標

地域の次世代リーダーを生み出し、車体整備業界に新たな価値を創造する。

【VALUE】価値

- ワクワクするか
- 人を巻き込んでるか
- スピーディか

今年度は、以上のことを青年部会員全員と共有し、その理念に基づき、経営プロジェクト・組織プロジェクト、さらにはブロック活動の活性化を目指し、青年部会員の為の活動を行って参ります。

【活動】

●経営プロジェクト

経営プロジェクトでは【個社の経営基盤の強化】を行います。これは個社それぞれの価値を生み、それを高めます。まず現状を理解すると共に未来を見据え、どこを強化するか、お客様の求めているサービスとは何かなどを考え、他社との違いや自社の強みを活かすことで今後のリスクに対応出来る、そんな強靱かつ安定した経営を目指します。

それにはまず、個社の「更なるスキルアップ」をおこないます。自社の現状を理解し、正しきを学ぶとともに、市場、技術、競合他社、顧客の状況など、様々な情報を把握し個社の業務に反映させる必要があります。

次に、既存BP業務からの「新たな取組み」の調査、共有をして、BP業界を根本から

別のものに変えるのではなく、固定観念にとらわれない交流や発想により、各社の強みを活かした、新しい価値とビジネスモデルを創り上げることを推進します。また、すでに時代に合わせた新たな取組があれば、そのアイデアを組合内で共有し発展・展開出来るようにしていきます。

そして3つ目は、個社の「適正価格」について、作業の内容や時間、価格の見直し、決算書を含めた数字と、各社レバレッジの必要性と算出方法を理解することで、根拠のある数字を正当に主張・運用できるようにサポートして参ります。

其々がこれらの取組を進めることで、経営プロジェクトの目指す、個社の経営基盤の強化を図ります。

●組織プロジェクト

組織プロジェクトでは、元気溢れ、チャレンジを続ける【環境対応型組織】を目指します。

まず1つ目は、組織の「運営改善」に取り組めます。組織を運営する上で、必要なツールや仕組みを考え、最適な方法を検討し、推進します。これにより今までの活動を、よりスムーズで、より効率的に行えるようになります。これはブロック運営や単組運営にも活かされます。

2つ目は、「巻き込み活動と発信」です。経営プロジェクトや各ブロック活動を含めた、青年部活動の内容を確認し、適切なツールを使った発信を行います。規模の大きい工場だけでなく、小規模の工場、若手や女性の働く工場などの意見も聞きながら、時に巻き込む事業なども検討し、青年部会を効率的に広く発信していきます。

そして3つ目は、現段階でCO2を排出する自動車の車体整備事業者として、「SDGs活動」に取り組めます。我々の業務から発生する産業廃棄物に関する知識の強化、新たな活用方法についてや、様々な角度からの持続可能な取組について、次世代に豊かな地球環境を残す為の青年部活動を推進していきます。

●ブロック活動

各ブロック活動では【会員増強】をテーマに、若返りを意識した活動で、「単組資源の最大化」の支援をするべく、それぞれのブロックで楽しみながら、より多くの人と必要な内容の事業の企画を立案し実行します。

具体的には、各ブロックでの「kaizen活動」と「対面交流」を行います。

「kaizen活動」

コスト高や人材不足など、業界の中でも各地域ごとに潜在する、違った課題に対する解決策がここにあります。

kaizen活動をするにあたり、まず個社や地域の現状分析から行い、その課題を共有し、改善策について議論を行います。日常作業を多角的視点から疑って議論し、改善したい点や問題点を洗い出し、実行、評価することで現場のムダを取り、作業効率、生産性をアップに繋げます。評価はこの取組みで成果があったものをポイントとして加算し、総会や全国大会で発表していただきます。取組み内容はプロジェクト活動から選んでもかまいません。

「対面交流」

昨今では、新型コロナウイルスの感染拡大により、自粛を余儀なくされてきたリアルイベントですが、アフターコロナに伴い、イベント開催の準備を進めているケースも増えてきました。是非ともブロック活動をリアル開催に切り替え、対面方式で熱のある議論を交わし、地域の活性化に取り組んでいただきたいと思います。

また、各ブロック若返りの運営としまして、部会員の中に20代、30代を入れることを意識しましょう。今の若い世代は我々とは全く違う物の捉え方、異なる価値観を持っており、若手の意見を積極的に取り入れることで、新たな視点からの組織運営も期待できます。早い段階からリーダーへの候補者として携わることで、その意識と自覚を持っていただき、次世代のリーダーの育成、次年度への移行もスムーズに行うことが可能となります。

●健康への意識・活動

私は何よりも部会員の皆様の健康を一番に考えていきたいと思っております。日々多忙な部会員の皆様だからこそ、ご自身の身体と健康への意識を持っていただきたいと思います。なぜなら、メンバーひとりひとりが健康でなければ個社の明るい未来の実現や、青年部会の発展など、実現することができないからです。

むすびに

私は29歳の時に1人で独立し、わずかな借り入れで小さな工場から始め、現在の会社を一から創りました。創業当初は認証工場でもなく言わゆる「未認証工場」で営業し、全ての業務を1人でこなしていました。忙し過ぎて、1週間自宅に帰らず働いていると、いつの間にか仕事が沢山あると勘違いし、有頂天になっていました。おまけにその頃は同業を敵と捉えるほどの「馬鹿野郎」でした。後に認証も取得し徐々に社員も増えましたが、成長過程における経営課題は常に変わっていくものだと痛感しながら、売上は伸び悩み苦しみ続けていました。

そんな時に出会ったのが、この青年部会です。全国の仲間との交流の中で、みんなの色々な苦悩と挑戦に触れることが自分の経営課題の解決になることを確信いたしました。業界や仲間のために、ここまで真剣に考えている人達がいることに衝撃を受けたのです。

今まで自分のことしか考えることのできなかった馬鹿野郎が、今こうしてここにいるのは、歴代の部会長をはじめとする全国の青年部会の仲間のお陰です。私は2年間、業界と仲間達のために本気で考え、「部会員の為の無謀」を胸に、全力で活動していく決意であります。私もそうだったように、全国の部会員にとって、お互いに与え合い、成長して行くような、そんな誇れる組織を実現しましょう。

さあ、初志貫徹！業界史上最高の挑戦者達となれ！！

第4号議案

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会 令和5年度 事業計画書(案)

基本方針

日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会(以下青年部会)の活動目的を達成するために、以下の事業を行う

【令和5年度 総会の開催に関する事業】

場所:東京 AP虎ノ門

- 令和5年度の事業計画案・収支予算案の審議および活動方針の共有や具体的事業内容の発表を行う
- その他、次年度全国大会開催地の募集などを行う

【令和5年度 全国大会に関する事業】

- 開催単組によるプレゼン 開催単組:福岡 ○ 各種セミナーの開催
- 組織・経営の両プロジェクトの計画発表 ○ 次年度全国大会開催地の発表:立候補により決定

【全国部会長会議の開催に関する事業】

- 総会や全国大会の際に全国の単組部会長による会議を行う
- 単組部会長の方々との情報共有や、各ブロック活性化・各単組活性化のための戦略的会議を目的とした事業

【プロジェクト事業】

- 青年部会の活性化を目的とした2つのプロジェクト事業

- 事業サポーター事業の説明

■経営プロジェクト

(個社の経営基盤を強化する事業)

- 市場、技術、競合他社、顧客の状況など、様々な情報を把握し個社の業務に反映させる事業
- 新しい価値とビジネスモデルを創り上げる事業
- 根拠のある数字を正当に主張・運用できるようにサポートする事業

■組織プロジェクト

(元氣溢れる環境対応型組織にする事業)

- 組織運営において 必要なツールや仕組みを考え、最適な方法を検討し推進する事業
- 青年部活動を、適切なツールを使用し、効率的に広く発信する事業
- 次世代に豊かな地球環境を残す為の活動を推進する事業

【ブロック運営に関する事業】

- 若返りを意識した事業
- 各地域ごとに潜在する、違った課題を解決する「kaizen活動」事業
- 若手の意見を積極的に取り入れた次世代リーダー育成に繋がる対面事業

【総務広報に関する事業】

- 総会、全国大会、役員会等の円滑なる運営に関する事業
- 関係各所との連携に関する事業
- 媒体を利用した情報発信に関する事業
- 会員名簿作成と単組会員の入退会や変更等に伴う円滑な事務処理に関する事業
- 日車協連理事会(本会理事会)参加に関する事業(本会事業への協力)

令和5年度収支予算書(案)

日 時	2023年4月8日
作 成 者	西牧 正人

収入の部

	令和5年度予算額	令和4年度予算額	令和4年度決算額
I 会費収入	(10,412,000)	(9,234,000)	(8,011,822)
1. 会費収入	2,832,000	2,904,000	2,988,000
2. 通常総会事業収入	1,100,000	550,000	256,795
3. 全国大会事業収入	4,500,000	4,500,000	4,047,000
4. 補助金収入	680,000	680,000	680,000
5. その他事業収入(全国大会セミナー・PJTセミナー)	1,300,000	600,000	40,027
II 事業外収入	(50)	()	(59)
1. 受取利息	50	0	59
III 前期繰越金	(5,680,280)	(5,623,602)	(5,623,602)
合 計	16,092,280	14,857,602	13,635,483

支出の部

	令和5年度予算額	令和4年度予算額	令和4年度決算額
I 事業支出	(11,770,000)	(9,910,000)	(7,955,203)
1. 事業経費	(8,670,000)	(7,270,000)	(5,196,525)
(1) 総会事業費	1,700,000	1,200,000	566,610
(2) 全国大会開催事業費	5,100,000	5,100,000	4,058,088
(3) ホームページ運営費	200,000	100,000	166,540
(4) 組織プロジェクト事業費	200,000	200,000	86,271
(5) 経営プロジェクト事業費	200,000	200,000	225,536
(6) プロジェクト開発事業費	200,000	200,000	63,480
(7) ブロック運営費	270,000	270,000	30,000
(8) 広報費用	200,000		
(9) その他事業費(セミナー等)	600,000	100,000	66,264
2. 事業間接費および一般管理費	(3,100,000)	(2,640,000)	(2,758,678)
(1) 会議費	2,800,000	2,450,000	2,579,343
(2) 印刷費	50,000	100,000	10,000
(3) 慶弔費	100,000	50,000	84,850
(4) 手数料	20,000	10,000	20,180
(5) 事務費	100,000	30,000	64,305
(6) 通信費	30000		
II. 予備費	(4,322,280)	(4,947,602)	
	(1,358,000)		
当期余剰金			5,680,280
合 計	16,092,280	14,857,602	13,635,483

* 必要に応じて予算及び金額等の項目の流用を認めることにする。

* 剰余金は幹事会の承認を得て本会計に繰り入れられます。

第6号議案

令和5年度 会費徴収方法(案)

1 会 費 1所属部会員 年額6,000円(月額500円)

2 徴収方法 年額を一括で6月末日までに納入する。

ゆうちょ口座から

記号 14350 番号 93820071

ゆうちょ以外から

ゆうちょ銀行 四三八支店(ヨンサンハチ) 普通預金 9382007

口座名 : 日本自動車車体整備協同組合連合会青年部会

3 徴収案

例:令和4年度

都道府県名	所属部会員数	金額(年額)
北海道	14 名	¥84,000
青森県	16 名	¥96,000
岩手県	9 名	¥54,000
宮城県	20 名	¥120,000
山形県	14 名	¥84,000
秋田県	10 名	¥60,000
新潟県	25 名	¥150,000
石川県	14 名	¥84,000
富山県	3 名	¥18,000
長野県	32 名	¥192,000
千葉県	9 名	¥54,000
群馬県	19 名	¥114,000
茨城県	28 名	¥168,000
東京都	20 名	¥120,000
埼玉県	52 名	¥312,000
福井県	21 名	¥126,000
愛知県	10 名	¥60,000
岐阜県	19 名	¥114,000
大阪府	14 名	¥84,000
京都府	16 名	¥96,000
兵庫県	10 名	¥60,000
奈良県	22 名	¥132,000
滋賀県	8 名	¥48,000
和歌山県	18 名	¥108,000
岡山県	9 名	¥54,000
香川県	4 名	¥24,000
熊本県	8 名	¥48,000
宮崎県	8 名	¥48,000
鹿児島県	17 名	¥102,000
福岡県	3 名	¥18,000
合計	472 名	¥2,832,000

総会会場（AP新橋）使用上の注意点

【 ロビーや通路などでのおしゃべりはひかえる 】

この時期は、ロビーに隣接する部屋にて企業の採用関連での利用がありますので、特に配慮が必要です。

【 会場（Aルーム）利用開始前はロビーでお待ちください 】

久しぶりに再会すると高揚し、話し声が大きくなりがちです。
他の利用者へのご迷惑とならないよう、各会議前はロビーにてお待ちください。

【 喫煙所は4階フロア・5階フロアをご利用ください 】

広いスペースではございません。分散して利用ください。
他の階は別テナントが入っております。立ち入りの無いようお願い致します。

【 トイレも4階フロア・5階フロアをご利用いただけます 】

上記同様、他の階には立ち入らない様をお願い致します。

【 上記以外にも他の利用者にご迷惑をかける行為は慎んでください 】

**業界の社会的地位向上のため
皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します!!**